2010年 国際生物多様性年

IUCN（国際自然保護連合）とは

IUCNは、私たち人間が生きていくうえで必要な自然、とくに生きものの豊かさを守り、自然資源がいつまでも絶えることのないよう、みんなが公平に、上手に利用していけるような社会をめざして、1948年から活動している団体です。

自然を守ることは、国だけの仕事ではなく、市民や科学者など大勢の人の協力が必要です。そのためIUCNは、国・自然保護団体・科学者がそれぞれの力を出し合って、世界的な自然保護を進めています。

ウェブサイト　http://www.iucn.org/ (英語)

IUCN-J（国際自然保護連合日本委員会）とは

IUCN-Jは、IUCNの会員になっている日本の団体が集まって、IUCNに関する情報を交換しあい、IUCNの活動に協力するために、1980年につくられました。

お問い合わせ

国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J)
〒104-0033　東京都中央区新川1-16-10　ミトヨビル2F　日本自然保護協会内
Tel 03-3553-4109 Fax 03-3553-0139
IUCN-Jウェブサイト　http : //www.iucn.jp/
Email : mail@iucn.jp

この冊子は、生物多様性のことを日本のより多くの方々に普及していくために制作されました。IUCN親善大使イルカさんのコンサートを通じて集められたご寄付や地球環境基金の支援などを基に作成されています。

IUCNの活動の普及・広報にご協力ください。
郵便振替口座：00190-0-278919　口座名義：国際自然保護連合日本委員会

IUCN | Japan Committee

ミックス品

レッドリスト2009

生命の多様さとその危機

Kihansi Spray Toad (*Nectophrynoides asperginis*)　Photo © Tim Herman

The IUCN Red List of Threatened Species™

© 2009 IUCN-J

IUCN | Japan Committee

生物多様性ー地球と生命の多様さ

地球上には、174万もの種が発見されています。しかし、私たちのまだ知らない種はたくさんいて、その数は1000万とも3000万ともいわれています。

しかし、いまたくさんの種が絶滅しようとしています。絶滅を防ぐためには、どんな種がどのような理由で絶滅してしまったのか、どうして絶滅しそうなのかをよく知る必要があります。

そこで作られたのがIUCN（国際自然保護連合）のレッドリストです。私たちはレッドリストから野生生物の現状、そして、地球の今の姿を知ることができるのです。

レッドリストはどんなもの？

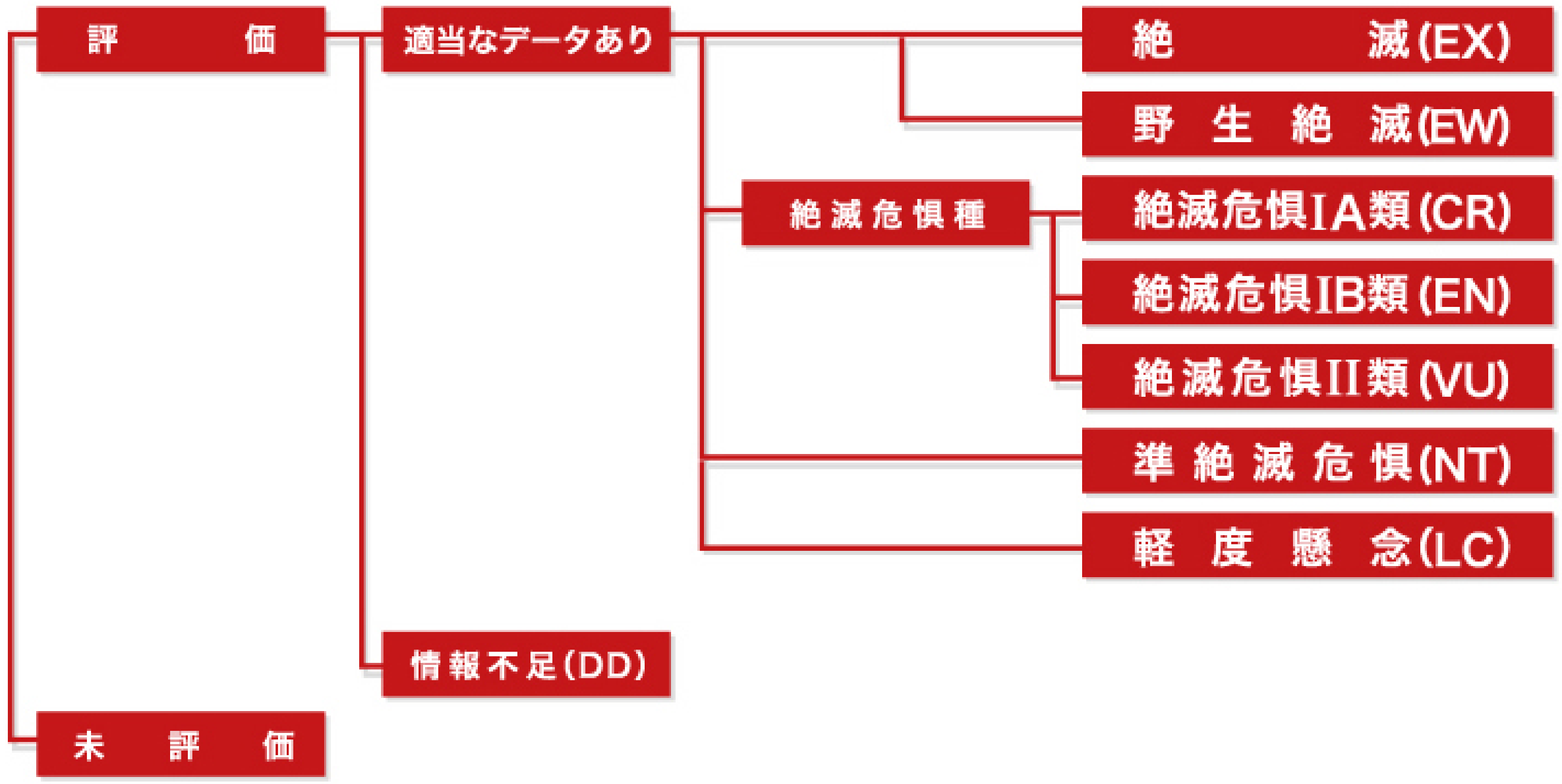
レッドリストとは、世界の絶滅のおそれのある種（絶滅危惧種）の現状や原因をIUCNがまとめたもので、絶滅危惧種を守る法律や対策を作るために活用されています。たとえば、絶滅のおそれのある種の国際取引を規制する条約である「ワシントン条約」の対象となる種をきめる際に活用されています。

レッドリストは、IUCNに加盟する科学者グループ（IUCN種の保存委員会）や専門家・自然保護団体の調査・研究をもとに作られており、1966年に初めて作られ、2000年からはインターネットを使って、誰でも調べることができるようになっています。

IUCNレッドリストホームページ
http://www.iucnredlist.org/

「絶滅のおそれのある種」とは、絶滅を避けるための対策がとられなければ、この100年以内に（あるいはもっと近い将来に）、その種が１頭も残らず、地球から永久にいなくなってしまうおそれのある野生生物をいいます。

種の絶滅のおそれを調べるには、その個体数や生息地の広さ、それらの減少のスピードなどを知ることが必要です。IUCNはこれらの情報を集めて、野生生物の状況や絶滅の危険性を下の図のように分類しています。IUCNは絶滅しそうかどうかを考えるための世界共通の基準も作っています。



絶滅種	絶　滅 (EX)	すでに絶滅したと考えられる種
絶滅種	野 生 絶 滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ生存している種
絶滅危惧種	絶滅危惧IA類 (CR)	ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
絶滅危惧種	絶滅危惧IB類 (EN)	IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
絶滅危惧種	絶滅危惧II類 (VU)	絶滅の危険が増大している種。近い将来絶滅危惧I類となることが確実
	準絶滅危惧 (NT)	現時点では絶滅の危険度は小さいが、環境の変化によっては「絶滅危惧」になる可能性のある種
	軽度懸念 (LC)	評価を行ったが、上記に該当しない種
	情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種

※「情報不足」の中には、すでに絶滅に近い状態の（そのため、情報も集まらない）種も含まれています。

どんな生きものが絶滅危惧種？

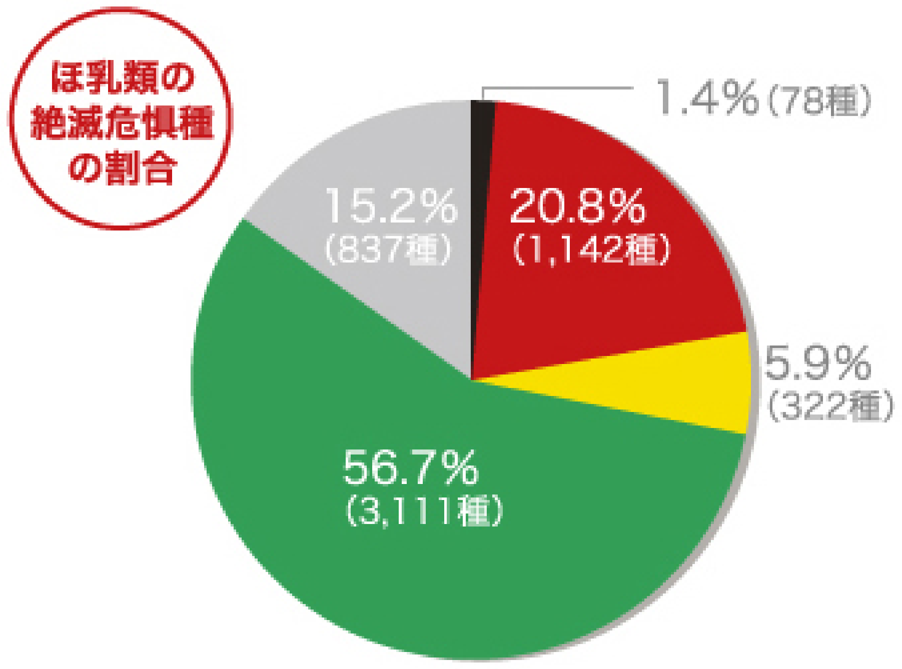
IUCNでは、これまで十分な情報がある生きもの約4万7千種を調べてきました。そこで分かったのは、2009年の段階で17,300種近くの生きものが絶滅しそうになっていることです。

調べた種の内、ほ乳類の5分の1、鳥類の8分の1、両生類の3分の1が絶滅の危機にあります。

カスピカイアザラシ
(*Pusa caspica*)

過剰な捕獲や海の汚染などで、100年前と比べ頭数が10%近くまで減少しているといわれ、2008年危機の度合いを一段階上げることになりました。

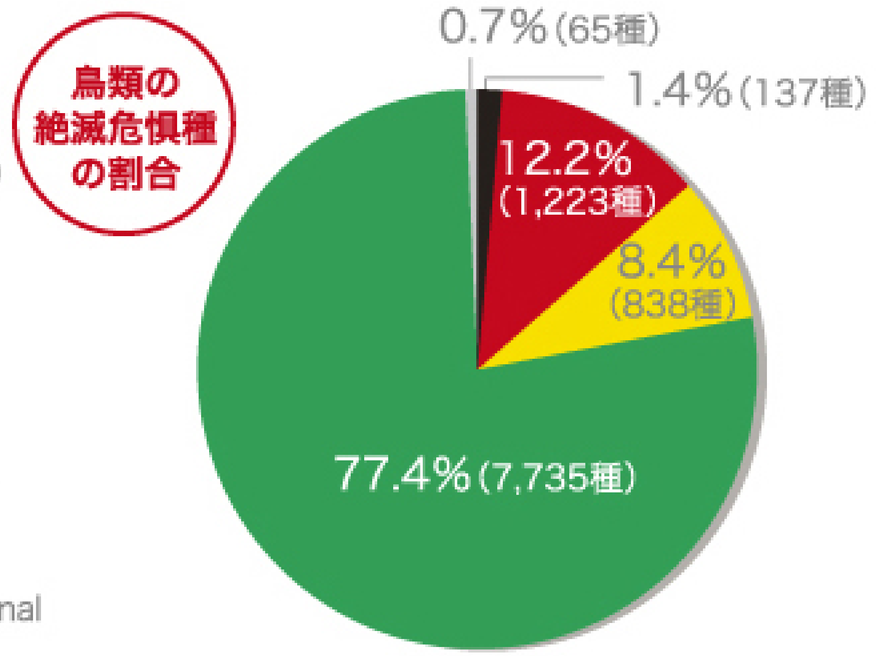
Photo©Simon Goodman
(University of Leeds/Caspian International Seal Survey)



エチオピアニセヤブヒバリ
(*Heteromirafra sidamoensis*)

エチオピア固有のヒバリの仲間で、農耕地の拡大とそれに伴っておこった草地の減少によって、個体数の減少に歯止めがかからず、2009年に絶滅危惧ⅠA類へと危機状況の格上げが行われた。

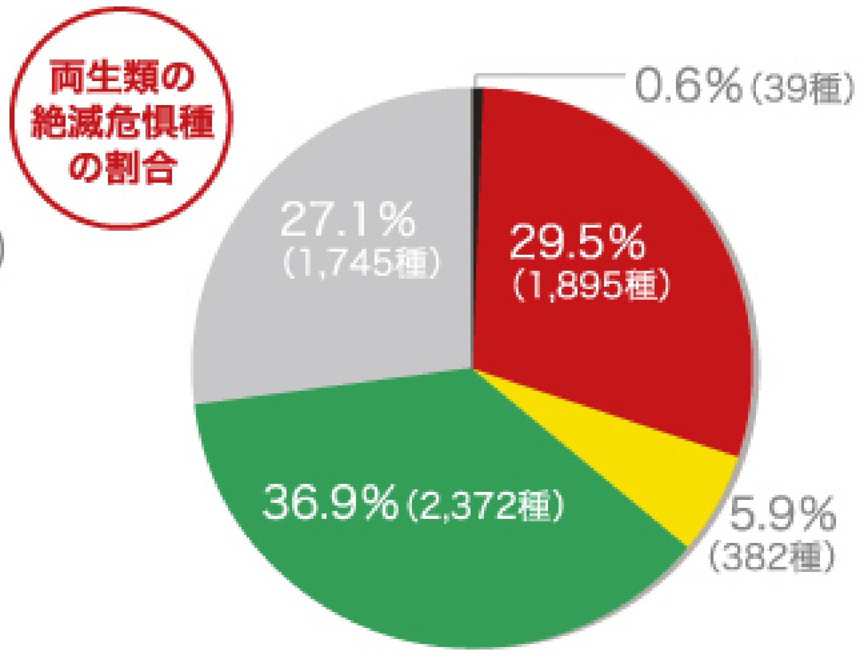
Photo©Greg Davies
Photo supplied by BirdLife International



キハンシヒキガエル
(*Nectophrynoides asperginis*)

水力ダム開発の影響などによって2003年以降劇的に減少し、2004年1月の記録で3個体しか確認できなかったカエル。2009年に正式に「野生絶滅」したことが宣言された。

Photo©Tim Herman



円グラフ説明

■絶滅した種 ■絶滅のおそれのある種 ■近い将来、絶滅危惧種になる可能性のある種 ■絶滅のおそれの低い種 ■まだ研究されていない種

人間が発見した種の数・生息状況を調べた種の数・絶滅危惧種の数の一覧

(数字は2009年度版のレッドリスト)

		人間が発見した種の数	生息状況を調べた種の数	絶滅危惧種の数	人間が発見した種のうちの絶滅危惧種の割合
動物	ほ乳類	5,490	5,490	1,142	21%
	鳥類	9,998	9,998	1,223	12%
	は虫類	9,084	1,677	469	＊ 5%
	両生類	6,433	6,285	1,895	29%
	魚類	31,300	4,443	1,414	＊ 5%
植物（特に、比較的評価の進んでいるグループ）	裸子植物**	1,021	909	322	32%
	被子植物	281,821	10,876	7,948	＊ 3%

＊ は虫類、魚類、被子植物は調べている種が少ないために数字が低くなっています。世界の野生生物がどういう状況なのか、分かっていないことはたくさんあります。私たちは、もっともっと自然のことを調べなければなりません。

＊＊ ソテツ、イチョウ、針葉樹の仲間

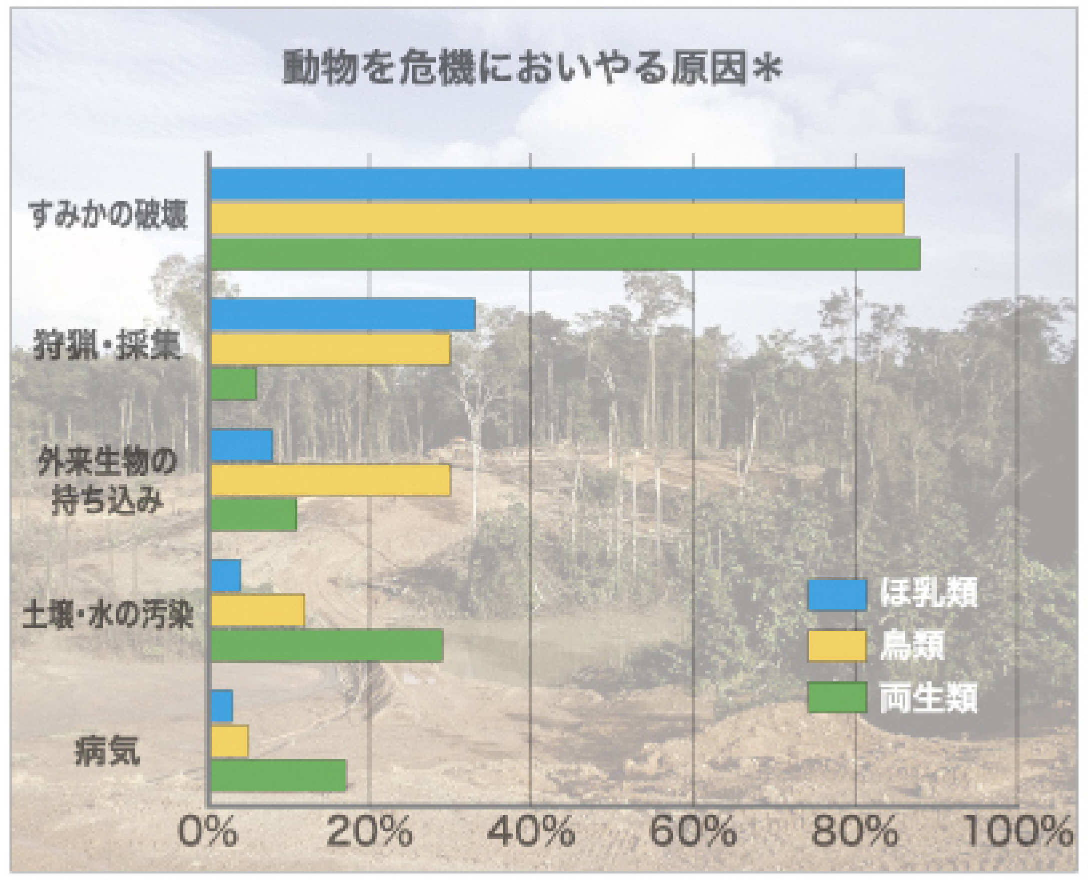
昔、地球にすんでいた恐竜が、環境の変化について行けずに絶滅したように、生きものが絶滅するのも自然のなりゆきのひとつです。

けれども近年は、私たち人間の活動が原因で、たくさんの生きものがこれまでにない速さ、たとえば、自然に絶滅する速さの100倍から1,000の速さで絶滅しているといわれています。

どうして絶滅するの？

野生生物が絶滅する理由は3つに分けられます。

- 野生生物のすみかをこわしたり汚したりすること
- 野生生物のすみかに、これまでいなかった生きものを持ち込むこと
- 食べものやペットにするためにたくさん捕まえてしまうこと



Photo©Jean-Christophe Vié
＊：ひとつの種が複数の原因で危機においやられている場合もあります。

また、地球温暖化が進むと、鳥類の35%、両生類の52%、サンゴの71%に悪影響が出るといわれています。

たくさんの種類の生きものがいることはとても大切なことです。ひとつひとつの生きものは他の生きものと複雑なつながりをもっています。ある生きものが絶滅すると、それとつながっている他の生きものも一緒に影響をうけて、絶滅してしまうこともあります。

野生生物が絶滅すると人間が生きてゆくのに必要な環境そのものが失われることにもつながります。

レッドリストは、私たちに何を教えてくれるのか？

調べれば調べるほど、レッドリストに含まれる種の数は増え、地球の危機的状況が分かってきました。レッドリストを作ることで、絶滅危惧種の多い場所、絶滅をふせぐために必要とされる対策などを知ることもできます。

レッドリストを作るうえで、一番大切なことは、生きものの数が減っている、すみかがなくなっているという生きものの変化・自然の変化をずっと見続けること（モニタリングといいます）です。自然を見つめる人・調べる人、そしてそういう活動を応援する人々に支えられながら、IUCNはレッドリストを作ってきました。

絶滅しそうな生きもののために　私たちにできること

身近な生きものに関心を持ちましょう！

生きものはどんなに小さくても、大きくても、みんな同じように大切です。世界のみんなが身近な生きものを大切に思うことが、種を絶滅から守ることにつながります。

絶滅から守るにはどうすればいいかを調べて、実行してみましょう！

私たち一人一人の何気ない行動が、種の絶滅や自然の破壊につながっていることがあります。どうすれば生きものを守れるのかを調べて、実行しましょう。

例えば

「絶滅のおそれのある生きものやその製品を買わない」

絶滅のおそれのある生きものやそれをもとに作られた製品を売ったり、買ったりすることは、「ワシントン条約」や「種の保存法（しゅのほぞんほう）」という日本の法律でも規制されています。海外旅行などで、絶滅のおそれのある生きものや規制されている製品を買わないようにしましょう。

「動物は責任をもって飼育する」

人間に捨てられた外国産の動物が、絶滅のおそれのある生きものを食べてしまうなど、悪影響が出ています。とくに影響の大きな動物は、「外来生物法（がいらいせいぶつほう）」によって、輸入や飼育が規制されています。それ以外の動物であっても、寿命がつきるまで責任をもって飼育しましょう。

自然や生きものを守る人々を応援しましょう！

生きものを守るために活動している人たちを応援することも、私たちにできることのひとつです。自然や生きものを守るために活動しているグループの会員になる、チャリティー募金をするなど、みんなで力を出し合えば、多くの生きものを絶滅から守ることができます。

レッドリストをもっと詳しく知りたい人のために

IUCN-Jレッドリストのページ　**http://www.iucn.jp/protection/species/redlist.htm**

「IUCNレッドリストカテゴリーと基準 3.1版」(自然環境研究センターホームページよりダウンロード可能)
http://www.jwrc.or.jp/

「環境省　インターネット自然研究所　ＲＤＢ図鑑(日本のレッドデータブックについて)」
http://www.sizenken.biodic.go.jp/rdb/